



試験栽培を重ね、大豆の安定多収生産技術確立を目指す

組合長：對馬忠法(組合長歴6年)
 団体構成人数：25人
 作付面積：140畝

輝くみらい人・仲間

尾上支店管内

尾上大豆作業受託組合

● 組合の活動について

尾上大豆作業受託組合は、大豆に関する作業受託組織で、溝掘り、播種、除草剤散布、中耕培土、刈り取り作業など病害虫防除を除き、春から秋までの一貫作業を実施しています。春の栽培講習会、農閑期の成績検討会、作業期間中の作業反省会などを通じて、栽培技術の共有、向上、作業課題の洗い出しと改善に努め、多収生産に向けて日々研鑽しています。

● 大豆の多収生産に向けて取り組んだこと

令和4年産の収穫量が豪雨被害で過去最低(平均単収1.9俵/10a)となったことから、その中でも高収量だった生産者の栽培管理を調査し、分析することで大豆多収生産マニュアルを作成しました。春から秋までの全ての作業を見直した結果、令和5年産は過去最高の収穫量(平均単収4.5俵/10a)を確保出来ました。

● 現在課題になっていること

大豆は天候、地力により収量の幅が大きく、安定多収生産が課題となっています。昨年は多収生産への取り組みとして、堆肥、緑肥、光合成促進資材、亜リン酸資材などの栽培試験圃場を設置し、生育調査、収量調査を実施して成績書を作成しました。農閑期の成績検討会では大豆生産者へ報告し、試験内容の普及性を協議しています。また、次年度は排水対策、雑草対策について、積極的に試験を実施する予定です。

● 組合の目標や今後の展望について

年々米の消費量が減少している中で、米価下落対策として輸入に依存している大豆を農業の経営に取り入れ、生産者の経営リスク分散・所得向上を目指し、大豆の安定多収生産技術を確立させたいと考えています。また、生産者の経営安定を図ることで、将来にわたる持続可能な地域農業の役に立つような組合であることに努めていきたいです。